

2025年度 事業計画 及び 収支予算

I-1 2025年度 公益目的事業計画

九州交響楽団における喫緊の課題は、主催公演においてコロナ禍以前の入場者数に戻り切れずおらず、いかにしてファン層を拡大し入場数増につなげるかである。往年のクラシック音楽ファン層が多いご高齢のお客さまを大切にしつつ若年層の音楽ファンも取り込み、九響ファン全体として若返りを図る。そして九州一円での九響の認知度を高め集客を増やす必要がある。

このため、2025年度は新たな九響ファンの拡大や創立70周年を機に2023年度に改定した「九響ビジョン」に掲げる社会的使命の達成に向けて新しい取組みにチャレンジする。

その一環として、10年に亘り皆さんに親しんでいただいた「名曲・午後のオーケストラ」シリーズを2023年度で終了し、4月には福岡市民ホール開館を記念して福岡県との友好提携都市であるハノイ市のベトナム国立交響楽団との「特別演奏会」を2,000人収容の大ホールにて開催、8月には同ホールの中ホールにてバリアフリーの「夏休みリラックス・コンサート」を開催する。9月には「吹奏楽×オーケストラ スペシャルライブ」として、アクロス福岡シンフォニーホールで国内有数の吹奏楽団である航空自衛隊 航空中央音楽隊を迎えて共演し活動の拡充を図る。

また、福岡・北九州に加え、熊本でも「九響 0歳からのオーケストラ」（4月）と「特別演奏会」（11月）を開催し、福岡県外における演奏活動を展開する。熊本県立劇場とは、2月に包括連携協定を締結しており、クラシック音楽を通じた地域文化の振興にも貢献したい。

さて、主催公演の年間プログラムについては、2024年4月に首席指揮者に就任した太田弦監修のもと策定している。太田には「定期演奏会」全9回のうちの3回、リニューアルした「夏休みリラックス・コンサート」に加え、8月に川崎市で開催する「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2025」への出演など、新たな九響の顔として、九響の幅広い活動を通してプレゼンスを高めてもらう。

同じく2024年4月にミュージック・アドバイザーに就任した“マロ”こと篠崎史紀には、出身地である北九州市において「第79回北九州定期演奏会」（8月）と「オーケストラ for キッズ」（3月）、コンサート会員及び九響後援会会員限定の「サンクス・コンサート」（8月）に出演し、九響の広告塔として様々な場で活躍してもらう。

このように「九響ビジョン」に基づき、国や福岡県、福岡市、北九州市からの補助金や九響後援会からの支援をいただきながら、幅広い年齢層のお客さまに「聴きたい」「観たい」と思っていただける指揮者やソリストを多数招聘するとともに演奏曲目についても、より分かりやすく親しみやすい有名な楽曲を数多く取り入れることとしている。具体的にはこれらの楽曲を「定期演奏会」「天神でクラシック」「北九州定期演奏会」の3シリーズを中心とし、「第九」「ニューイヤーコンサート」「夏休みリラックス・コンサート」「オーケストラ for キッズ」「九響マタニティコンサート」などの単独公演の各プログラムにおいて披露していく。

お客さまから好評を得ている「終演後の楽団員によるお見送り」「九響交流カフェ」は継続・拡大し、楽団員をより身近に感じられる機会を創出する。さらに、定期演奏会で演奏する作品を題材に聴きどころを紹介する「目からウロコ!の九響おんがくアカデミー」では、九響メンバーによる演奏やお客さまにクラシック音楽の魅力を楽しんでいただく様々な工夫を凝らすなど、九響ファンのすそ野拡大を目指した取組みを推進する。

併せてチケット制度についても、これまでのコンサート会員、チケット1回券に加え、お好みの演目や出演者、会場、日時で複数の公演をお得に購入できるセット券「選んでとっと一会員」を新たに導入。多様なライフスタイルにあわせ九響の演奏会をセレクトしていただくことが可能となった。

最後に、当楽団の演奏活動等の情報発信についても、定例会見やSNS、マスメディアの活用を通して積極的に展開し、一人でも多くの皆さんに当楽団の活動を知っていただけるよう努めていくことで来場者拡大につなげていきたい。

(1) 主催公演

主催公演は、九響が自ら企画して市民に幅広く告知・販売して公演を行うことにより、クラシック音楽の魅力を市民にお届けし、音楽文化の発展に寄与する公演である。

2025年度については、福岡市で24公演、北九州市で4公演を実施する。

福岡市では、以下の24公演を実施する。

- ① <定期演奏会> (9公演)
- ② <天神でクラシック> (3公演)
- ③ <第九(福岡)> (1公演)
- ④ <ニューイヤーコンサート2026(福岡)> (1公演)
- ⑤ <九響マタニティコンサート> (2公演)
- ⑥ <サンクス・コンサート> (2公演)
- ⑦ <夏休みリラックス・コンサート> (1公演)
- ⑧ <福岡市民ホール開館記念 特別演奏会> (1公演)
- ⑨ <吹奏楽×オーケストラ スペシャルライブ> (1公演)
- ⑩ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロス一人コンサート)> (2公演)
- ⑪ <オーケストラ for キッズ> (1公演)

- ① <定期演奏会> (9公演)

地域における芸術文化の振興発展を目的とし、オーケストラを通してクラシック音楽文化の普及促進を図る演奏会。初演作品や実演に触れる機会の少ない音楽作品などを積極的に取

り込み、九州のクラシック界をリードするオーケストラとして芸術性を重視したプログラムをお届けする。また、地理的にアジアと近い九州の特性を活かしてアジア出身の指揮者やソリストを招聘するなどアジアとの文化交流の礎を築いていく。

2016年度から開催してきた定期演奏会のプログラム解説講座「目からウロコ!?"のクラシック講座」をリニューアルし2023年度から「目からウロコ!?"の九響おんがくアカデミー」と改題した。仕事帰りのお客さまにも配慮し開催時間を夕方18時30分に変更するとともに、楽団員による生の演奏を盛り込むなど、より魅力ある講座とし定期演奏会の集客増を目指している。

また、コロナ禍で長らく休止していた楽団員による“お見送り”や“公開リハーサル”は新型コロナ5類移行を機に(2023年6月から)再開している。楽団員有志による開演前のロビーコンサートや音楽主幹による「聴きどころ解説」の再開には至っていないが、2024年4月から、開演10分前に出演者による「プレトーク」を開催し多くのお客さまに好評を得ている。

「2025年度の特徴として」

(i) 2024年4月に九響首席指揮者に就任し、2025年3月「第23回齋藤秀雄メモリアル基金賞」を史上最年少で受賞した太田弦は、2024年度は定期演奏会2公演(4月、11月)に出演したが、2025年度は4月、9月、2月の合計3回の定期演奏会を指揮、スタンダードな作品はもとより、引き続きオーケストラと共にチャレンジングな作品にもトライし、福岡、九州のお客さまに魅力的なプログラムを提供する。2024年度はオペラ作品の上演がなかったが、2025年度は、5月に独ハノーバー州立歌劇場第2カペルマイスターを務める熊倉優が、オペラファン必聴のプッチーニの名作オペラ「トスカ」を演奏会形式で取り上げる。6月は、2020年に予定していた共演がコロナ禍で中止となったフィンランドの重鎮オッコ・カムを迎えてオールシベリウスのプログラムをお届けする。7月は、九響との相性抜群でお客さまからの支持も厚いユベール・スダーンが3年連続で登場し、ブルックナーの名作2曲と、最後にモーツアルト／アヴェ・ヴェルム・コルプスを戦後80年の夏に追悼と平和への祈りを込めて演奏する。10月は、前音楽監督で終身名誉音楽監督の小泉和裕を迎へ、ベートーヴェン、チャイコフスキイのオーソドックスな交響曲を2曲届ける。11月は、2023年6月の定期演奏会で初登場となったマカオ出身で国際的に活躍中のリオ・クオクマンを迎へ、難易度が高く演奏機会の少ないストラヴィンスキイ／バレエ音楽「ペトルーシカ」を演奏する。難易度の高い楽曲を取り上げることはオーケストラのクオリティアップにもつながり、現在の九響にとってその難易度の高い楽曲を演奏することは十分可能だと考える。本プログラムは翌日の「熊本特別演奏会」でも取り上げる。12月は、九響フ

アンからも高い支持を得ている、ロシアの巨匠ヴァレリー・ポリヤンスキイが2年振りに登場しロシア音楽の名曲を3作品届ける。

(ii) 2025年度も多彩なソリスト陣との共演を予定している。シリーズ最初の4月は、ピアノ三浦謙司が生誕150年を迎えるラヴェル／ピアノ協奏曲で九響初共演。5月は、主役に高野百合絵、宮里直樹、今井俊輔らを迎えて、日本人トップクラスの歌手陣でプッチーニ／歌劇「トスカ」（演奏会形式）に臨む。九響合唱団や筑紫女学園中学校音楽部（児童合唱）の協力も得て華々しく聴きどころ溢れるコンサートになると予想する。6月に出演のヴァイオリン中野りなは、2021年第90回日本音楽コンクール優勝、2022年第8回仙台国際音楽コンクールにおいて史上最年少の17歳で優勝、及び聴衆賞を受賞し大きな注目を浴びている若手ヴァイオリニスト。7月は、2024年12月「第九」で美声を聴かせた鈴木玲奈（ソプラノ）、渡辺玲美（アルト）、そして2023年12月「第九」で本格的な男声を聴かせた工藤和真（テノール）、池内響（バリトン）が登場し、ロマン派宗教音楽の最高傑作ブルックナー／テ・デウムとモーツアルト／アヴェ・ヴェルム・コルプレスを平和への祈りを込めて歌い上げる。9月に取り上げるソロホルンとテノール、弦楽器だけのオーケストラという珍しいオーケストラ編成のブリテン／テノール、ホルンと弦楽のためのセレナードは九響初演。元NHK交響楽団首席ホルン奏者福川伸陽の卓越した演奏技術と福川が何度も共演し信頼している鈴木准との共演が大注目。11月は、没後80年を迎えるバルトーク作品を前半に2曲お届けする。世界的に活躍するヴァイオリン金川真弓は、豊潤かつ深い音色で奏でられる音楽は数多くの聴衆を魅了するであろう。2019年チャイコフスキイ国際コンクール第4位、2018年ロン＝ティボー国際音楽コンクール第2位入賞および最優秀協奏曲賞を受賞し、2024年、ショルジュ・エネスク国際コンクール優勝。国内外オーケストラの共演も多く、特に今回取り上げるバルトーク／ヴァイオリン協奏曲第2番は圧巻と予想する。12月に共演のピアニスト阪田知樹は、2023年1月「天神でクラシック」で初共演。2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール（ハンガリー・ブダペスト）第1位、6つの特別賞。コンクール史上アジア人男性ピアニスト初優勝の快挙を成し遂げた。今回は本人の強い要望でチャイコフスキイ／ピアノ協奏曲第1番を取り上げる。

(iii) 2025年度もアマチュアの合唱団ながら合唱指揮の横田諭氏のもと高い水準を持ち、様々な作品に対応できる能力を持つ九響合唱団との共演を予定している。筑紫女学園中学校音楽部（児童合唱）も出演する5月のプッチーニ／歌劇「トスカ」（演奏会形式）のほか、7月にも九響合唱団をはじめ地元合唱団との共演を予定している。

② <天神でクラシック> (3公演)

幅広い世代へのクラシック音楽の普及を目的とし、シリーズ各回それぞれプログラムにテーマを設け、出演者による曲目解説やエピソードトークを交えることで、クラシック音楽に馴染みのなかったお客さまにも生の演奏の魅力を実感していただくコンサート。F FG ホールの特性を考慮して小編成のオーケストラ作品の魅力を紹介する。

「2025 年度の特徴として」

(i) 「音楽 発見！ラボ#9」では、我が国のH I P (Historical informed performance) の第一人者である鈴木秀美を指揮に迎え、前期～中期ロマン派の名作を新たな解釈、演奏で提供し、新鮮なロマン派の音楽と普段とは趣の違った当団の音を楽しんでいただきた。また、ソリストの務川慧悟は留学先でフォルテピアノも学び、今回は現代のピアノでの演奏であるが、その理解、解釈は鈴木秀美の指揮と相乗効果を生むと期待できる。

(ii) 「音楽 発見！ラボ#10」では、若手で活躍が目覚ましい坂入健司郎を迎えて、マルティヌーとドヴォルザークを同時に取り上げる。同じチェコの作曲家で50 年の時を隔てた2人の相違と共通点を発見できるように構成した。お話の奥田佳道の分かりやすい進行でその点についても補助線を引けるようにする。オーボエのソリストには九州、宮崎出身でNHK交響楽団に所属する池田昭子を迎え、実力はもとより九州に縁のある音楽家を披露する機会にもなる。

(iii) 「音楽 発見！ラボ#11」では、元ベルリン・フィルのコンサートマスターで当団とも縁の深い安永徹をコンサートマスターに迎え、あえて指揮者を置かない室内樂的アプローチでモーツアルトの名曲を演奏する。普段の当団からさらに緻密なアンサンブル、音色が引き出されることを意図している。

③ <第九（福岡）>

年末恒例の企画として定着している公演。九州、鹿児島出身でありNHK交響楽団正指揮者を務める下野竜也を客演指揮に招き、国内トップクラスの歌手陣とともに名作を披露する。九響合唱団や賛助出演する地元の合唱団との共演の機会でもある。

④ <ニューイヤーコンサート 2026（福岡）>

定期演奏会等でも度々共演を重ねるキンボー・イシイ指揮のもと、恒例のウィーンのワルツ、ポルカに加えラプソディー・イン・ブルー等のアメリカ音楽の名作も加えた。そのラプソディー・イン・ブルーでソリストを務めるのはNHK交響楽団打楽器奏者で作曲もピア

ノも全て網羅しているマルチ奏者、竹島悟史。オーケストラを熟知している竹島ならではのピアノ独奏も他では聴けない楽しみである。

⑤ <九響マタニティコンサート ママとパパとベビーに贈る 0歳からのオーケストラ> (2公演)

普段のオーケストラ演奏会には足を運びにくい小さな子ども連れや妊婦さんに来場いただけるように、会場設営や接客、舞台進行を工夫したコンサート。近年、女性の指揮者の活躍にも注目が集まる中、今年の公演では若手女性指揮者の喜古恵理香さんが当団と初共演をする。

⑥ <サンクス・コンサート> (2公演)

例年はコンサート会員だけをお招きしていたが、2025年度からは九響後援会会員も対象とし午前・午後の1日2公演とした。ミュージック・アドバイザーの篠崎史紀とともに日頃のご愛顧やご支援への感謝を表す機会として開催する。

⑦ <夏休みリラックス・コンサート> (1公演)

夏休み恒例の「九響サマーコンサート」を年齢や障がいを越え、誰もが音楽を楽しむことができるオーケストラ・コンサートとしてリニューアル。完全な静寂でなくても鑑賞を楽しめる環境で演奏中の入退場も可能とする。福岡県障がい者文化芸術活動支援センター（FACCT）や九州大学の協力、助言を得て普段は劇場に足を運びにくいという方も安心してご来場いただけるよう様々なバリアフリーに取り組む。

⑧ <福岡市民ホール開館記念 特別演奏会> (1公演)

2025年3月に新たに開館する福岡市民ホールの開館記念事業の一環として当楽団の特別演奏会を開催する。開催にあたり福岡県が友好提携を結ぶベトナム・ハノイ市に拠点を置くベトナム国立交響楽団の楽団メンバー（8名）、同楽団の音楽監督を務める日本人指揮者の本名徹次、ベトナム人ピアニストのグエン・ヴィエット・チュンを招聘し、両楽団、日本人とベトナム人音楽家の合同公演とする。歴史的・地理的にアジアとの交流地点である福岡における国際文化交流のさらなる活性化を目指すと共に、九響ビジョンに掲げる「アジアを中心に国内外への発信力を高め音楽による文化交流を推進します。」を具体化する事業として実施する。

⑨ <吹奏楽 × オーケストラ スペシャルライブ> (1公演)

トップレベルの吹奏楽団である航空自衛隊 航空中央音楽隊を招き、合同演奏による大編成のオーケストラ作品やそれぞれ単独の吹奏楽、弦楽合奏の公演をおこなう。オーケストラやクラシックファンはもとより、福岡県吹奏楽連盟や九州吹奏楽連盟の協力を得て吹奏楽部に

所属する学生や、一般の吹奏楽団体で演奏する人たち、吹奏楽ファンなどの幅広い客層に来場いただく機会にする。

⑩ <舞台芸術感動体験事業コンサート（アクロス一人コンサート）> （2公演）

本公演は、アクロス福岡と福岡県教育委員会、福岡県教育文化奨学団体からなる実行委員会と九州交響楽団がコラボし青少年を対象に企画しているコンサート。2025年度も上記団体と協力し共同主催事業として午前・午後の1日2公演実施する。

⑪ <オーケストラ for キッズ> （1公演）

例年九響が春休みにこどもたちへ贈るコンサート。聴きやすく楽しめる、そして情操教育の一端としてオーケストラ音楽を身近に感じてもらえる企画とする。2026年3月は、ミュージック・アドバイザー篠崎史紀のリードのもと同氏の絵本「おんがくはまほう」を基にプログラムを構成する。

北九州市では、以下の4公演を実施する。

北九州市での公演は、福岡県北東部のクラシック音楽普及促進を目的として、4公演を実施する。

① <北九州定期演奏会> （2公演）

② <第九（北九州）> （1公演）

③ <ニューイヤーコンサート2026（北九州）> （1公演）

① <北九州定期演奏会> （2公演）

5月公演は世界的チェロ奏者の鈴木秀美を指揮に招き、若手実力派のピアニスト、務川慧悟とともに初期ロマン派の名作を取り上げる。また、公演に先立ちプログラム解説や室内楽による公演PRのためのプレイベントを予定している。8月（第79回）では、北九州市出身でミュージック・アドバイザーの篠崎史紀による指揮、ヴァイオリンと同じく北九州市出身のピアニスト谷昂登が共演する。公演終了後には、北九州市では初となる楽団員と来場者がお茶を飲みながら交流する「九響交流カフェ」を開催し北九州地区のファン拡大に努める。

② <第九（北九州）> （1公演）

福岡公演と同じく NHK交響楽団正指揮者を務める下野竜也を客演指揮に、国内トップクラスの歌手陣、地元合唱団の北九州市民フロイデコールとの共演で年末を名作で彩る。

③ <ニューイヤーコンサート 2026 (北九州) > (1公演)

福岡公演と同じく指揮キンボー・イシイ、ピアノ竹島悟史とともに親しみやすいウィーンのワルツ、ポルカ、アメリカ音楽で新年を華やかに迎える。

(2) 依頼公演

<主催公演>以外で、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートであり、当楽団にとって重要な収入源である。2025年度の依頼公演については、「中学生の未来に贈るコンサート」が2024年度から新たな契約（3年間）の2年度として47公演を実施するほか、全依頼公演は93公演を予定している。

2025年度も文化庁「舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）」に採択されたことにより、6公演を実施する。この他、公演依頼先からお声掛け頂いた場合にはお客様のニーズにお応えしながらスケジュールが許す限り積極的に受託していく。

一方、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽》演奏も実施する。この《室内楽》も<依頼公演>に含まれる。

前述、<主催公演>、<依頼公演>は、公益法人の公益目的事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の5種類に分類している。公益法人における公益目的事業区分は以下のとおり。

[1] 定期演奏会 (11公演：福岡市9公演、北九州市2公演)

福岡市での

<定期演奏会> (9公演)

北九州市での

<定期演奏会> (2公演)

[2] 巡回演奏会 (8公演：福岡市5公演、北九州市2公演)

福岡市での

<天神でクラシック> (3公演)

<第九（福岡）> (1公演)

<ニューイヤーコンサート 2026 (福岡)> (1公演)

北九州市での

<第九（北九州）> (1公演)

<ニューイヤーコンサート 2026 (北九州) > (1公演)

[3] 特別演奏会 (12公演)

福岡市での

<九響マタニティコンサート 2025> (2公演)

<サンクス・コンサート> (2公演)

<夏休みリラックス・コンサート> (1公演)

<福岡市民ホール開館記念 特別演奏会> (1公演)

<吹奏楽×オーケストラ スペシャルライブ> (1公演)

<舞台芸術感動体験事業コンサート (アクロス一人万人コンサート) > (2公演)

<オーケストラ for キッズ> (1公演)

熊本市での

<0歳からのオーケストラ> (1公演)

<熊本公演> (1公演)

[4] 移動音楽教室 (1公演)

情操教育を目的とした公演であり、依頼を受け実施する<依頼公演>の一つであるが、『移動音楽教室』として分類している。

[5] 依頼演奏会 (123公演：オーケストラ公演：93公演、室内楽演奏：30公演)

<参考> 2025 年度公演数一覧

	2025 年度計画	2024 年度計画	2024 年度実績 (見込)	計画比増減
定期演奏会	11回	12回	12回	1回減 ※1
巡回演奏会	7回	12回	12回	5回減 ※2
特別演奏会	12回	8回	8回	4回増 ※3
移動音楽教室	1回	1回	0回	増減なし
依頼演奏会	93回	86回	87回	7回増 ※4
合 計	124回	119回	119回	5回増

※ 1 2024 年度 4 月開催の第 420 回定期演奏会を 2 回実施

※ 2 巡回演奏会「天神でクラシック」4回→3回、「名曲・午後のオーケストラ」シリーズ 4 回終了

※ 3 特別演奏会「福岡市民ホール開館記念特別演奏会」、「吹奏楽×オーケストラ スペシャルライブ」、熊本公演(2回)

※ 4 依頼演奏会 3 回増、町村会 8 回増、文化庁 4 回減

<参考> 2024 年度公演

	計 画	実 績 (見込)	増減内訳
定期演奏会	12回	12回	増減なし
巡回演奏会	12回	12回	増減なし
特別演奏会	8回	8回	増減なし
移動音楽教室	1回	0回	実施なし (1回減)
依頼演奏会	86回	87回	・依頼演奏会：3回増 (6回増, 3回減) ・中学生公演：2回減 (台風接近のため) ・文化庁公演：増減なし
合 計	119回	119回	増減なし